

かごつま家族ねっと

第11号

発行人 鹿児島県知的障害者施設家族会連合会

事務局 〒890-0032

鹿児島市西陵7丁目30番3号

川畑岩夫 宅

TEL・FAX 099-281-9548

平成29年度家族並びに施設職員研修会盛況

～ 2地区支部家族会から発表 ～

平成29年度家族並びに施設職員研修会が、平成30年1月13日(土)、14日(日)の両日霧島市のホテル京セラで開催されました。会場の関係で定員が300名でしたが、会場を埋め尽くす参加者とプログラムの多彩なこともあり、たいへん盛り上がった2日間でした。

家族と施設職員との合同研修会の開催は、全国的にもあまり例を見ない研修会であることをお聴きする度に、このような機会を設けていただいている鹿児島県知的障害者福祉協会のみな様に感謝の気持ちで一杯になります。

開会のことばの中で、福祉協会の水流純大会長より、昨年の研修会で家族として思うことで発言された「一日に一回でいいから優しい言葉をかけてほしい」との願いを大切にして施設運営に当たっているとのお話があり、たいへん嬉しいことでした。

家族会も共催として参加させていただいており、家族の想いの発表や家族会員と施設職員の方々との意見交換ができるなど、家族としての情報交換のできる場にもなっています。

家族会連合会の兼廣倫生会長より、家族会連合会の全国大会や鹿児島県の研修会の様子の報告がありました。特に、全施連の活動の主要活動のひとつである「新しい生活施設の在り方提言Ⅱ」の作成について協力依頼があり、会場で多くの協賛金が寄せられました。(3ページ参照)

研修Ⅰの「家族として思うこと」では、鹿児島市地区支部のコスモス家族会の宮脇隆一さんと大隅地区支部のトゥモローかのや保護者会の町元茂さんから、それぞれのお子様の誕生から現在までの歩みの報告があり、親として深く共感でき、そして今後も頑張らねばと勇気付けられることでした。

研修Ⅱの「職員からのメッセージ」では、就労・支援事業所あすなろの岩切靖浩さんから、人間関係とコミュニケーションについて留意しながら職務に当たっていることや、特に毎日の支援活動においては、対話の中でのOKメッセージの大事さについて話されました。利用者や家族にとってOKメッセージは信頼・安心の基盤になるだけに嬉しく思うことでした。また「グループディスカッション」では、27のグループに分かれて多面的に意見交換がおこなわれました。



「講演とピアノ演奏」では、宮崎市在住のピアニスト野田あすかさんの演奏と母親の野田恭子さんの講演「発達障害の娘との30年」に、深い感動を覚えることでした。

研修会の最後は、MBCタレントの野口たくおさんの講演「元気であれば何でもできる！」で会場を笑いの渦にしながら「優しい言葉を他人にも自分にもかけてやり自分を褒めてください」と生き方のヒントをいただきました。

まだ参加されたことのない会員のみな様も、是非一度は参加してほしい貴重な研修会です。

平成29年度県家族会連合会研修会開催

「知的障害者の家族にとって、今、何が心配か」のテーマで真剣な意見交換

平成29年度の鹿施連の研修会が平成29年11月10日（金）に「ハートピアかごしま」において開催されました。

例年、講師の方をお呼びして当面の課題について、その問題点や家族会の関わり方等について講演による研修をしてまいりました。しかし、今年は会員の生の声をお互いに出し合い「家族にとって、今、何が一番心配であるかを浮き彫りにしようではないか」との目的で、家族会員などによる研修会を企画しました。会員の話し合いだけに、研修会にどれだけの参加があるだろうかと心配もありましたが、全くの杞憂で100余名の参加があり、活発な意見交換がなされました。

10グループに分かれ、1グループ10人であらかじめ役割分担していた鹿施連の役員を司会者（リーダー）にして、各グループ内での自己紹介、記録者選出のあとフリートーキングで話し合いが始まりました。休憩を取り入れながら約100分間に亘り話し合いが続けられました。話し合いの後、各グループのリーダーから話し合いの様子が報告されました。

グループによって話題になった事項の順序は異なりましたが、多くの事項が共通に取り上げられました。取り上げられた主な事項は、次のようなものでした。

- 親の高齢化や死去による影響
- 利用者本人の高齢化による課題の出現
- 成年後見制度利用上の課題や問題点
- 施設への入所の手続き（ステップ）
- 施設の経営理念への要望
- 障害の特性に応じた支援
- 職員の待遇についての家族会の考え方
- 利用者とその兄弟姉妹との関わり
- 65歳で遭遇する介護保険との関係
- 終の住処の考え方
- グループホームでの生活上の不安
- 施設での支援の在り方
- 行政への要望
- 親の勉強（情報の取得）の必要性

また、「親が本音で話し合える研修会は良かった」との声などが数多く上がりました。会場が狭くて隣のグループの声が聞こえた等の声もありましたので今後活かしていきます。

時間が余った時には全施連の全国大会の報告に当てようとその準備もしてありましたが、その時間も無く紙上で報告することになりました。みな様のご協力に感謝申し上げます。



「新しい生活施設のあり方提言Ⅱ」の作成のために ワンコイン募金のお願い！

全施連では平成24年度に、これからの知的障害者の生活の中心となる新しい生活施設のあり方に関する提言として『家族が求める暮らしのあり方 ～親の想いを社会にとどけたい～』を発表しました。(通称、提言Ⅰで右の写真がその表紙です。全施連のホームページで全文を読むことができます。)

「施設解体論」や「隔離施設から地域に」等の主張がなされる中で、知的障害者にとっては24時間生活できる施設が必要であると本人や親の立場から訴えたものでした。提言Ⅰに対しては各方面から多くの反響が寄せられました。

しかし、その内容の一部に理解しにくい部分もあるとの声や、その後知的障害者を取り巻く状況の変化や意思決定支援等の新たな課題等も顕在化してきました。

そこで、今回、知的障害者のセーフティーネットとして障害者支援施設が必要であることを主張し、更に障害者支援施設が地域生活を支える重要な拠点であることを希求して新たな提言『新しい生活施設のあり方提言Ⅱ』をまとめることになりました。

提言Ⅱの作成に当たっては、これまで全施連の活動の指針を提示してくれた研究者、全施連の役員、全施連の会員である施設職員、家族会員等からなる専門の研究組織(通称『プロジェクトチーム「PT」』)を立ち上げました。提言Ⅱにおいて、生活施設の必要性を強く訴えるためには、その内容や主張の背景等を誰にも分り合うように整理し、整然としたものにしなければなりません。(理論等についての話し合いが必要になります。)そのために、プロジェクトチームは、数回に亘って一堂に会し、討論を深めなければなりません。多大な時間と費用が必要になります。

また、全施連の会員すべてが想いを同じくして欲しいとの願いから、提言Ⅱが出来上がった暁にはすべての会員に提言Ⅱを小冊子にして届けようとの計画もあり、その印刷費や郵送料などが必要になります。

そこで、全施連では、必要経費を生み出すために、会員のみな様にワンコイン(500円)募金のお願いしております。鹿施連としての取り組みは、29年度の研修会や施設職員との合同研修会の席上で説明し、お願いしてまいりましたが、詳細につきましては、平成30年度県総会の場で説明します。各施設家族会での取り組みの準備をよろしくお願い申し上げます。



鹿児島地区支部研修会(講演会)のお知らせ

期日・時間 平成30年3月2日(金) 15:00～17:00 場所 ジェイドガーデンパレス

講師 鹿児島県知的障害者福祉協会会長・あさひが丘学園統括施設長 水流 純大さん

(お願い) 鹿児島市地区支部以外の家族会員の方で参加を希望される方は、資料の準備等の関係で下記までご連絡ください。鹿児島市地区支部の家族会には、別途案内を差し上げてあります。

連絡先 事務局 川畑岩夫 (☎ 099-281-9548)

平成29年度全施連全国大会 in 秋田

大会テーマ「新しい生活の場を語ろう」で盛り上がる

「全国知的障害者施設家族会連合会第13回全国大会 in 秋田」が秋田市の秋田キャスルホテルで平成29年10月3日（火）、4日（水）の両日開催されました。鹿児島県から会長の兼廣、副会長の岡元、事務局長の川畑の3名が参加しました。秋田県の家族会連合会は、組織自体がさほど大きくなく、家族会単独では開催に支障をきたすとのことから、開催に当たっては準備段階から当日まで秋田県福祉協会の全面的な協力があっての開催とのことでした。たいへん心温まる運営でした。

各県の家族会が組織自体に多くの課題を抱えている現状を鑑みたとき参考にしていくべき開催運営ではなかったのではないのでしょうか。

大会テーマとして「新しい生活の場を語ろう」が掲げられました。新しい生活施設とはどのようなものをイメージするかを現在の視点に立脚して討論が進められました。全員参加型の討論会をメインと位置付け、1日目が「主に家族からの話題提供」、2日目が「主に福祉事業者所からの話題提供」としてそれぞれ3名の方々から発表があり、それに対して助言者や会場からの発言もありました。

「家族の高齢化により在宅での養育が困難になっている」「自傷等により家族での養育が困難になっている」「終の住処として安心して託せる支援施設」等の訴えが家族からなされました。

「施設での意思決定支援が課題になってきている」「65歳での介護保険優先や高齢化での課題」

「終の住処として安心して託せる支援施設を目指す」等の想いが施設側から話されました。

講演では全施連の南守副理事長より、基礎的研修として職員数の確定、支援の向上策。人材確保等について、具体的な根拠についての説明がなされました。

大会決議案が5項目に亘って示されました。また全国の仲間との交流の深まった2日間でした。

来年度は、兵庫県での開催です。鹿児島県でも全国大会を開催して欲しいとの声が多く上がっています。「そう遠くない時期に引き受けるべき」と役員一同で話し合いを深めております。今年の大河ドラマ「西郷どん」、その先に「鹿児島国体」と鹿児島からの発信が続きます。鹿施連からも全国に向けて発信していきましょう。



編集後記

年2回の発行で、半年分の鹿施連の活動の紹介になり、大会とか研修会の様子の紹介で旧聞に属することも掲載せざるをえませんことをご了解ください。また全国規模の活動や各県の活動の様子は全施連のホームページ (<http://zennsiren.web.fc.com/>) に紹介されておりますのでご覧ください。平成30年度の会報は、8月と2月の発行予定です。会報に関するご意見は事務局までお寄せください。